

2012年後期 江戸の本づくり

第1回 書物を幅広く考察すること

はしぐち 橋口
こうのすけ 侯之介



江戸時代の豊饒な書物の世界である和本をより詳しく知るために、作者、職人、出版元、さまざまな本を売る書店、読者など、本に携わる人のメンタルな部分にも焦点をあてて具体的に本のつくりかたと流通を考察する。古い本を伝えることの重要性を書物の全体像から考える。これは同時に現代の電子書籍の問題につながる。

自己紹介：本職は神田神保町の古本屋・誠心堂書店主人。その経験を生かして2005年に平凡社から『和本入門—千年生きる書物の世界』を出版。翌年から成蹊大学の学部と大学院で「文献学共通講義」等で講義するようになった。2007年には『続和本入門—江戸の本屋と本づくりと』を刊行（いずれも現在は平凡社ライブラリー）。2011年6月『和本への招待』（角川選書）を上梓。雑誌「古書通信」誌に「江戸の古本屋」を連載。

テキスト：橋口侯之介 『江戸の本屋と本づくり—続和本入門』平凡社ライブラリー 2011年、宮下志朗氏の解説
受講を決めた人は、校内の紀伊国屋（10%引き）もしくはジュンク堂で。内容は本書に即しておこなうが、本にないことも話すし、逆に本を読めばわかることは講義ではいわないこともある。1月の最後に正式なレポート提出となるが、それ以前にも簡単なレポートを書いてもらうこともある。

▼ 授業の計画 ▼ 変更あり

1. 書物を幅広く見る ガイダンス 9/27
2. 江戸の本屋のありかた 10/4
3. 作者の強い出版熱。私家版の実態 10/11
4. 本ができるまで。職人の仕事 10/17
5. 本屋仲間というもの 10/24
6. 現代の和本事情 DVD「和本」鑑賞予定 11/1
7. 現代の和本事情 和本の市場（古典籍大入礼会） 11/8
8. 江戸の特殊な出版事情 11/15
9. メディアとしての写本 『源氏物語』の伝わりかた
10. 注釈と書き入れの世界
11. 庶民教育（寺子屋）の効果。大衆本の広がり
12. <本>と<草>の構造
13. 統計のとりかた。見方
14. これからの和本研究、ものとしての本。本の将来
15. レポート

講義の要旨はpdfにするので、http://www.book-seishindo.jp/seikei_tanq/でダウンロードを。

質問は、専用メールでいつでも。 khashi@s.email.ne.jp

出席（適宜）、受講態度、レポート（中間に適宜、及び期末）などから総合的に評価

そのほか参考文献はその都度紹介する